

「YNU研究拠点 中間報告会」:2025年11月19日(水)

アジア経済社会統計研究拠点

Research Center for Economic and Social
Statistics in Asia (ReCESSA)

国際社会科学研究院

佐藤 清隆

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

www.ynu.ac.jp

November 26, 2025

報告内容

1. 拠点基本情報

- ✓ 拠点の研究目的、科研費等獲得実績

2. これまでの研究活動・成果：データベース

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

3. これまでの研究活動・成果：国際共同研究

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

4. まとめ

- ✓ 今後の目標と課題

1a. 拠点基本情報

 **YNU** 横浜国立大学 YOKOHAMA National University アジア経済社会統計研究拠点

ReCESSA

TOP 概要 組織 データベース 研究成果 活動・イベント



アジア国際産業連関データベース YNU-GIO 産業別実質実効為替レート I-REER East Asian Database Project EADP

アジア経済社会統計研究拠点（ReCESSA）は、「アジア経済社会統計データベース」を構築・公開し、アジア経済社会と世界経済の連関やその影響に関する実証的・政策的研究を行うことを目的として、2012年4月に設置された研究拠点です。

ニュース & インフォメーション

- | | |
|-------------|--|
| 2025年 8月 5日 | 吉元宇楽講師と佐藤清隆教授の国際共著論文（NBER Working Paper No. 33748）のNon-Technical SummaryがNBER The Digest (August 2025) に掲載されました。 |
| 2025年 7月30日 | 佐藤清隆教授がシンガポール国立大学・東アジア研究所のWebinar（2025年7月9日開催）で講演を行いました。 |
| 2025年 6月23日 | 西川輝教授と佐藤清隆教授の共著論文が国際ジャーナル Japan and the World Economy (Available online 18 June 2025) に掲載されました。 |
| 2025年 6月23日 | 吉元宇楽講師と佐藤清隆教授の国際共著論文が NBER Working Paper (w33826, May 2025) として公表されました。 |

アジア国際産業連関データベース
YNU-GIO

産業別実質実効為替レート
I-REER

アジア社会統計データベース
EADP

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University
Initiative for Global Arts & Sciences グローバルな学問の未来

認定期間:

2024.4.1~2027.3.31

【拠点メンバー（国社）】

- 佐藤清隆（教授・拠点長）
- 相馬直子（教授・副拠点長）
- Craig Parsons（教授）
- Nagendra Shrestha（教授）

【研究目的】

- (1) **アジア経済社会統計データベース**を独自に構築する。
- (2) **国際共同研究**を推進し、その研究成果（シンポジウム開催等）を公表する。
- (3) 国内外で研究成果を発表する。特に**査読付き国際ジャーナル**に研究成果を発表する。

1b. 科研費等獲得実績 (2011年以降)

【佐藤：拠点長】

2009-2011 基盤研究(B)

東アジア諸国の均衡為替レートの推計と域内通貨システムの制度設計

2012-2014 基盤研究(B)

経済ショックの波及と為替レート制度の選択：新しい国際産業連関表に基づく実証研究

2016-2018 基盤研究(B)

国際価値連鎖に基づく最適為替レートの研究：経済ショックと為替変動へのレジリエンス

2016-2017 挑戦的萌芽研究

為替レートのパススルーの産業連関分析

2017-2020 基盤研究(B)特設分野研究

アジア統合下の競争、成長、環境の経済分析：グローバル産業連関表の応用と拡張

2019-2022 基盤研究(B)

日本企業の為替変動への耐久力：国際価値連鎖の中で
の為替リスク管理と価格設定行動

2023-2026 基盤研究(B)

国際価値連鎖下の為替パススルーと企業の通貨戦略：
為替変動の国際的波及の実証研究

2023-2025 挑戦的研究(萌芽)

経済ショックの国際的波及と貿易建値通貨選択：
現地法人データと国際産業連関表の統合

【相馬：副拠点長】

2009-2011 基盤研究(B)

東アジア地域連携におけるケアレジームの比較ジェンダー分析：社会的ケアの現代的諸相

2012-2014 基盤研究(B)

東アジアにおける介護と育児のダブルケア負担に関する
ケアレジーム比較分析

※2015-2016 トヨタ財団国際助成

ダブルケアラー支援への提言：日本・韓国PJ
(研究面の統括)

2016-2018 基盤研究(B)

ダブルケア責任の世代間ジェンダー比較分析：自治型・
包摂型の地域ケアシステム構想

2020-2022 基盤研究(B)

ケアをめぐる負の世代間連鎖：ジェンダー・世代・障がい
の包摂的権利保障へ向けて

2020-2022 挑戦的研究(萌芽)

子育て支援労働の社会経済的評価に関する量的・質的
把握の方法論開発

2023-2025 挑戦的研究(萌芽)

アフターコロナ時代における労働・休暇・ケア・社会政策
の相互連関に関する総合的研究

2023-2028 国際共同研究加速基金(海外連携
研究) 持続可能なケア社会圏・経済圏の構想：カナダと
日本の共同研究

報告内容

1. 拠点基本情報

- ✓ 拠点の研究目的、科研費等獲得実績

2. これまでの研究活動・成果：データベース

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

3. これまでの研究活動・成果：国際共同研究

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

4. まとめ

- ✓ 今後の目標と課題

2a. 独自データベース構築 (担当: 佐藤)



YNU 横浜国立大学 アジア経済社会統計研究拠点

実質国際産業連関表データベース (YNU-GIO Table)



実質国際産業連関表データベース

アジア国際産業連関データベース (YNU-GIO Table) は横浜国立大学国際社会科学研究院のシュレスタ・ナゲンドラ教授と佐藤清隆教授が構築したデータベースです。30か国 (うちアジア10か国)、16産業 (うち製造業14産業)、最終需要6項目の「実質国際産業連関表 (2005年基準)」を独自に推計し、26年分の年次データ (1995年~2020年) を公表しています。

同データベースは、OECDが公表するInter-Country Input-Output Tables (2022年版) をもとに、経済産業研究所 (RIETI) が公表する「世界25か国の産業別名目・実質実効為替レート」に用いた生産者物価指数 (Producer Price Index: PPI) または卸売物価指数 (Wholesale Price Index: WPI)、各国統計局が公表する消費者物価指数 (Consumer Price Index: CPI)、国連統計局 (UNSD) 国民計算勘定から入手した対米ドル名目為替レート (台湾については台湾の統計局が公表する為替レート) を用いて推計しています。

下記の表は2020年の実質国際産業連関表を3大陸 (アジア、北米、ヨーロッパ)、その他の国 (ROW+)、3産業 (農業、製造業、サービス業)、最終需要1項目に統合した大陸間実質産業連関表です。

		Asia			North America			Europe			ROW+			Final Demand				Total Output
		AGR	MFG	SER	AGR	MFG	SER	AGR	MFG	SER	AGR	MFG	SER	Asia	N. America	Europe	ROW+	
Asia	AGR	506	1,500	379	1	3	1	0	2	0	2	4	2	726	1	1	4	3,131
	MFG	617	8,157	4,022	9	140	155	6	142	107	49	327	234	4,796	366	231	469	19,828
	SER	433	2,862	5,467	2	21	72	2	37	102	14	47	106	13,562	119	91	114	23,049
N. America	AGR	5	30	7	104	303	98	1	11	5	4	19	4	8	209	4	10	824
	MFG	5	108	49	92	1,025	1,199	2	51	38	12	85	59	81	2,557	75	121	5,558
	SER	6	52	79	207	1,176	7,393	2	49	139	10	40	74	56	13,708	71	76	23,140
Europe	AGR	1	30	9	2	8	4	118	319	106	6	29	13	2	2	228	13	890
	MFG	14	235	108	8	89	83	108	1,860	1,474	35	281	199	181	230	2,606	388	7,901
	SER	8	77	142	4	28	119	180	1,673	7,126	25	91	267	104	116	11,351	197	21,509

アジア国際産業連関データベース

YNU-GIO

産業別実質実効為替レート

I-REER

アジア社会統計データベース

EADP

YNU 横浜国立大学
Initiative for Global Arts & Sciences グローバルな学問の発展

アジア経済社会研究センター

CESSA

ダブルケア
(ケアの複合化)

独立行政法人経済産業研究所
RIETI

2b. 独自データベース構築 (担当: 佐藤)



独立行政法人経済産業研究所
Research Institute of Economy, Trade and Industry

産業別実質実効為替レートデータベース (Industry-Specific Real Effective Exchange Rate)

研究テーマ

フェロー(研究員)

論文

出版物

イベント

[ホーム](#) > [データ・統計](#)

世界25カ国の産業別名目・実質実効為替レート

概要

経済産業研究所 (RIETI) の「[為替レートと国際通貨](#)」プロジェクトでは、アジアにおける望みの構築を目指して、為替レート変動が貿易に及ぼす影響に関する研究を進めている。この中で、横浜国立大学経済学部附属アジア経済社会研究センターと共同で、2011年6月より産業別実効為替レートおよび実質実効為替レートを構築・公開してきた。

一般に輸出価格競争力を測る指標として実質実効為替レートが広く用いられるが、輸出価格に測る「産業別実質実効為替レート」(Industry-specific Real Effective Exchange Rate)を表したのは本研究が初めてである。2015年3月からアジア9カ国の産業別名目・実質実効為替レート、2016年4月からは欧州・北米・オセアニア9カ国を加えた世界18カ国の産業別実効為替レートが月次データの両方で公表された。2018年2月からは、新たに7カ国を含めた世界25カ国のデータ

アジア諸国

日本

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



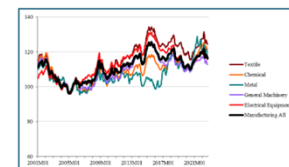
韓国

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



中国

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



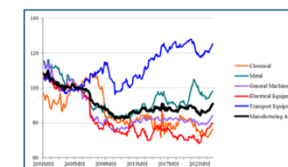
台湾

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



シンガポール

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



マレーシア

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



タイ

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



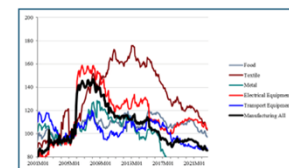
インドネシア

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



フィリピン

実質: 月次 / 日次 名目: 月次 / 日次



2c. 世界水準のデータベース構築

(1) Real YNU-GIO Table (実質国際産業連関表)

		Asia			North America			Europe			ROW+			Final Demand				Total Output
		AGR	MFG	SER	AGR	MFG	SER	AGR	MFG	SER	AGR	MFG	SER	Asia	N. America	Europe	ROW+	
Asia	AGR	506	1,500	379	1	3	1	0	2	0	2	4	2	726	1	1	4	3,131
	MFG	617	8,157	4,022	9	140	155	6	142	107	49	327	234	4,796	366	231	469	19,828
	SER	433	2,862	5,467	2	21	72	2	37	102	14	47	106	13,562	119	91	114	23,049
N. America	AGR	5	30	7	104	303	98	1	11	5	4	19	4	8	209	4	10	824
	MFG	5	108	49	92	1,025	1,199	2	51	38	12	85	59	81	2,557	75	121	5,558
	SER	6	52	79	207	1,176	7,393	2	49	139	10	40	74	56	13,708	71	76	23,140
Europe	AGR	1	30	9	2	8	4	118	319	106	6	29	13	2	2	228	13	890
	MFG	14	235	108	8	89	83	108	1,860	1,474	35	281	199	181	230	2,606	388	7,901
	SER	8	77	142	4	28	119	180	1,673	7,126	25	91	267	104	116	11,351	197	21,509
ROW+	AGR	30	554	129	16	75	25	8	101	42	949	1,165	455	23	9	30	974	4,586
	MFG	17	208	87	7	101	81	8	195	120	327	1,766	1,554	112	236	275	2,642	7,736
	SER	9	74	102	4	30	66	6	83	240	566	1,472	5,612	86	102	194	10,414	19,058
Gross Value-added		1,481	5,941	12,469	366	2,559	13,845	448	3,378	12,009	2,586	2,410	10,480					
Total Output		3,131	19,828	23,049	824	5,558	23,140	890	7,901	21,509	4,586	7,736	19,058					

産業別生産者物価指数で実質化した、
世界初の「実質国際産業連関表」

＜目標・計画＞

⇒ 内生国の増加によるデータベースのさらなる強化・改善を図る。

⇒ 同データを活用した研究論文を国際ジャーナルに掲載。

(2) 産業別実質実効為替レート

Japan

Real: Monthly / Daily

Nominal: Monthly / Daily



Korea

Real: Monthly / Daily

Nominal: Monthly / Daily



China

Real: Monthly / Daily

Nominal: Monthly / Daily



Taiwan

Real: Monthly / Daily

Nominal: Monthly / Daily



Singapore

Real: Monthly / Daily

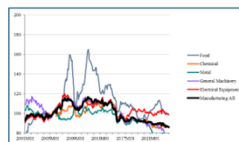
Nominal: Monthly / Daily



Malaysia

Real: Monthly / Daily

Nominal: Monthly / Daily



経済産業研究所 (RIETI) と本拠点 (経済学部附属アジア経済社会研究センター) との共同研究の成果

⇒ 世界で唯一の「**産業別**実質実効為替レート」データベース

⇒ RIETIのウェブサイトで公表(毎日更新)

＜目標・計画＞

⇒ 「グローバル・バリューチェーン(国際価値連鎖)」を考慮した、
新しい「産業別実質実効為替レート」データベースの構築と公表を実現する。

報告内容

1. 拠点基本情報

- ✓ 拠点の研究目的、科研費等獲得実績

2. これまでの研究活動・成果：データベース

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

3. これまでの研究活動・成果：国際共同研究

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

4. まとめ

- ✓ 今後の目標と課題

3a. 国際共同研究(2024年4月~2027年3月:佐藤)

2024年4月以降の国際共同研究(3年間の計画)

⇒ 2つの国際ジャーナルの**Special Issue Conference** (日仏共催)



**French/Japanese Conference on
Asian and International Economies in an Era of Globalization**

September 20-21, 2024 | Aix-en-Provence (France)

French-Japanese Webinar in Economics (FJWE)

⇒ 2022年10月21日より、日仏Webinarを開催。
⇒ 毎月1回、日本とフランスの研究者が1名ずつオンラインで研究発表を行う。
⇒ Sciences Po Aix / AMSE のProf. Gilles Dufrénot と佐藤(拠点長)による共同開催。

Paris School of Business

Aix-Marseille University
& Sciences Po-Aix

YNU

中国社会
科学院

経済産業研究所
(RIETI)

Edith Cowan University
(ECU)

Edith Cowan University (ECU) との共同研究を計画中
⇒ ECUのProf. Zhaoyong Zhang と佐藤(拠点長)による共同研究を再開予定。

RIETI-IWEP-CESSA International Workshop

⇒ 経済産業研究所(RIETI)、中国社会科学院・世界経済研究所(IWEP)、横浜国立大学経済学部附属アジア経済社会研究センター(CESSA)の共催で、2012年から毎年冬に、中国と日本で交互に開催。
⇒ 2025年10月12日に北京でワークショップ開催。

3b. 国際共同研究 (2024年4月~2027年3月: 佐藤)

2024年4月以降の国際共同研究

*Co-organized by Gilles Dufrénot and
Kiyotaka Sato*



French-Japanese Webinar in Economics (FJWE)



YNU YOKOHAMA
National University

12 April 2024

12 April 2024

France 10:00-11:00 Japan 17:00-18:00

Presenter 1 : Laurent Ferrara, France 11:00-12:00 Japan 18:00-19:00

Presenter 2 : Tomoo INOUE, Japan 19:00-20:00



Topic : Weather shocks and production

Title : Dynamic effects of weather shocks on production in European economies
Co-authors : Daniele Columbo

[Web page](#) Paper available : [here](#)

Abstract

The global financial crisis has brought increased attention to the consequences of financial shocks. In an era of high financial integration, we investigate the relationship between the exchange rate and international reserves using nonlinear regressions and panel data over 110 countries from 2001 to 2020. Our study shows the level of financial integration has increased over time, and the relationship between the exchange rate and international reserves is nonlinear.



Topic : International trade and business cycle

Title : Exploring the Macroeconomic Interdependence of East Asian Countries:
Co-authors : Tuan Khai Vu

[Web page](#) Paper available : No

Abstract

Over the past few decades, with rapid economic growth, East Asia has also experienced economic integration with active intraregional economic activities such as trade and investment. This development has contributed to the complex and possibly time-varying interdependence of countries in the region. To understand this interdependence, we investigate the relationship between the exchange rate and international reserves using nonlinear regressions and panel data over 110 countries from 2001 to 2020. Our study shows the level of financial integration has increased over time, and the relationship between the exchange rate and international reserves is nonlinear.

3c. 国際共同研究(2024年4月~2027年3月:佐藤)



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会



French/Japanese Conference on Asian and International Economies in an Era of Globalization

September 20-21, 2024 | Aix-en-Provence (France)

2024年9月20~21日開催(Sciences Po Aix, Aix-en-Provence, France)

Login

MAIN MENU

Home

Call for papers

Submission

Keynote speakers

Registration

Special issue

Committee

Partners

Practical information ▼

PRESENTATION

Sciences Po Aix, Aix-Marseille School of Economics (AMSE) and the Department of Economics of Yokohama National University are jointly organizing an international conference on Asian and International Economies in an Era of Globalization.

Our world is undergoing profound changes, reflecting profound changes in global governance, international trade, international financial markets and migration dynamics: the world of the 21st century. Is there anything special about the world of the 21st century, but also with Africa, Latin America, heightened hegemonic tensions, a more independent world? New empirical methods have to be studied and discussed.

Keynote speakers

- Mark HARRISON, University of Oxford
- Fukunari KIMURA, Keio University
- Mary-Francoise RENARD, Université de la Méditerranée
- Hélène REY, London Business School

Special issue

A selection of papers presented will be considered for publication in the following journals:



IF: 1.7

[Review of World Economics](#)



CiteScore:
5.7

[International Economics](#)

3d. 国際共同研究(2024年4月~2027年3月:佐藤)



日本学術振興会



French/Japanese Conference «International Economies: Challenges Ahead»

February 28 and March 1, 2026 | Kyoto (Japan)

Login

MAIN MENU

Home

Call for papers

Submission

Keynote speakers

Registration

Conference venue

Accommodation

Committee

Partners

Special issue

HELP

@ Contact

PRESENTATION

The University of Ryukoku in Kyoto in conjunction with the Department of Economics of Yokohama National University, Sciences Po Aix and the Aix-Marseille School of Economics will hold a conference entitled "International Economies: Challenges Ahead" on February 28 and March 1, 2026 in Kyoto, Japan.

Our world is undergoing deep changes, reflected by changes in international relations. International economic governance, international trade, international finance, agreements between companies, the globalization of labour markets and migration dynamics, geo-economics upheaval: the world of the 21st century is opening new dynamics at the start. The aim of the conference is to produce new theoretical and empirical analyses that will enable us to understand the mechanisms at work and measure the changes in the way economists investigate new issues.

Keynote speakers:

- Etsuro Shioji, Chuo University, Japan
- Mark Taylor, Washington University, USA



<第2回 日仏コンファレンス>

(2026年2月28日・3月1日開催)

(開催地: 龍谷大学・京都)

<Organizers>

- Gilles Dufrénot (Aix-Marseille University / Sciences Po Aix)
- 佐藤清隆(教授・拠点長)
- 松木 隆(龍谷大学)
- 杉本喜美子(甲南大学)

- 国際ジャーナルのSpecial Issue Conference として開催。
- 現在、複数のジャーナルと交渉中(1件確定)。

報告内容

1. 拠点基本情報

- ✓ 拠点の研究目的、科研費等獲得実績

2. これまでの研究活動・成果：データベース

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

3. これまでの研究活動・成果：国際共同研究

- ✓ 現在の研究認定期間(2024年4月~2027年3月)中の活動と成果

4. まとめ

- ✓ 今後の目標と課題

4. まとめ

- 本研究拠点の特徴と成果

- 独自データベースの構築

- RIETIとの共同研究による「産業別実質実効為替レート」は世界的に例のない独自Database。

- 国際的な研究連携の構築

- アジア、欧州、北米、豪の大学・研究機関との連携・国際共同研究の推進。

- 国際的な研究成果(国際ジャーナル特集号の出版)

- 佐藤(拠点長)、相馬(副拠点長)によるSpecial Issueの継続的な発表(社会系では顕著な成果)。

- 日本国内の政策課題への提言

- 佐藤は「為替レート、企業の通貨戦略」、相馬は「ダブルケア研究」の第一人者として、メディア等での積極的な発言、中央省庁審議会への参加、政策提言。

- 今後の目標と課題

- 国際的な研究連携を一段と推進・強化する。

- 研究成果の発信を強化。

- 政策的な発信、学術的な研究成果をさらに増やす。

- 独自データベースの一段の拡張。

- 若手メンバーの参加。